



竹村 仁司 議員

放課後児童クラブの拡充を

質問

少子・高齢化が進む現代社会において、少子化対策の在り方として「子供の幸せ」や「子育ての安心」が確保される社会の実現が望まれる。

男女共に働く社会になれば子育てを社会全体で支援するのは当然のことで、それが地域の活性化・経済の発展へと繋がっていくはずである。

本市でも、各学区に児童館が建設され、お母さん方保護者の就職にともなって放課後の家庭保育が困難な児童に対して、適切な遊び及び生活の場を与えることにより、児童

の健全な育成に対して様々な支援がなされてきた。



西川端児童館

現在、放課後児童クラブを利用してのお母さんの中から「小学3年生までの枠を1年でも2年でも拡充できないか」との問い合わせがあった。その点についての取り組みは。

福祉部長

拡大については、現段階では難しい。児童館と子育て支援センターもそつだが、一般利用という方法もあるもので、そちらの方も利用してほしい。

「口蹄疫」の被害は

質問

宮崎県で感染が確認された家畜伝染病である「口蹄疫」の被害が爆発的に拡大している。口蹄疫は、牛や豚など偶蹄類の動物がかかるウイルス性の伝染病であり、一度発生すると伝染力が強く、感染率や発病率も高いために家畜法定伝染病に指定されている。

今回、4月20日に1例目が確認された後、爆発的に拡大。5月12日現在、71例にも達し、殺処分される牛や豚は7万7千頭を超えた。10年前に比べ百倍の規模となり、その後の拡大も止まらなかった。

このように感染が確認されてから1カ月で前回ははるかに上回る規模に被害が広がった大きな原因が、政府の初動の遅れにあったことは明らかである。

この宮崎県での口蹄疫の被害も決して他人事ではない。現状として感染源も不明のま

まである。本市の畜産業の方からも「身につまされる思いだ」との不安の声を聞く。

本市にも口蹄疫の影響があるかどうか、畜産農家関係者の方たちに安心してもらうためにも、市での取り組みを問う。

経済建設部長

市内には養鶏を除く畜産農家が20軒ある。口蹄疫が感染する偶蹄類である牛や豚の総数は、2月1日現在で、牛が637頭、豚が6千878頭となっている。

愛知県西部家畜保健衛生所において、畜産農家の皆さんに対し調査などが実施されており、今のところ、口蹄疫を疑うような異常は認められていないし、影響はない。

市の取り組みとしても、担当者会議や県からの情報を受けて、畜産農家の皆さんに対して、啓発や情報提供を続けていく。